

アトリエ 琉游舎 だより 78号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

2020年5月6日発行

阿留辺畿夜宇和

(あるべきようわ)

- 鎌倉時代の僧「明恵上人遺訓」は「人は阿留辺畿夜宇和と云七文字を持つべなきり」という言葉から始まっています。「あるべきようわ」を「阿留辺畿夜宇和」と漢字で記してありますが、これは漢字の音だけを当てたものでそれぞれの漢字に意味はありません。
- 明恵上人は「僧は僧の、俗は俗の、王は王の、臣は臣のあるべきようがある。それぞれがこのあるべきように背いた行いをするために、すべてがおかしくなる。」と述べています。
- ここだけ読むと分際を守りなさいと封建制を容認する言葉に聞こえます。為政者に都合のよい言葉ですね。これがマスクの宰相や黒幕の向こう側から聞こえてきたら要注意ですが阿留辺畿夜宇和を日々の行いの指針にしている私の言葉ですのでご安心下さい。
- 続いて明恵上人は「我は後世たすからんと云者に非ず。ただ現世に先あるべきやうにてあらんと云者なり。」と述べています。彼は浄土に生まれ変わって救われたいとは思っていません。ただ、今のこの生を「あるべきよう」に「あろう」としています。
- 彼は「あるべきよう」は「これだ!」とは決して言ってはいません。「あるべきよう」に日々あろうとしています。仏教の根本思想は「諸行無常」です。この現実の世界のあらゆる事物は、縁起によって作りだされたもので、絶えず変化し続け、決して永遠のものではないということです。「あるべきよう」も絶対的な価値として定義されるものではなく無常の流転の中で「あるべきよう」に「ありたい」と生きることです。
- 「阿留辺畿夜宇和」は私が常日頃こうありたいと思っている「ありのままに観て、ありのままに行く」ことと全く同じことです。高僧の明恵上人と市井の平凡な日々を生きる愚僧の言葉が同じ意味とはなんと僭越な!でもこれが宗教です。明恵上人にも私にもお釈迦様の教えの灯は皆を平等に照らしてくれているのです。
- 平時には見過ごしていたことや気にならなかったことが、非常事態にあっては色々見えてくるものです。そこで不便やストレスを感じたりすることは、ひょっとしたら私やあなたが「あるべきよう」や「ありのまま」でない不要のものを纏っていたからなのかもしれません。危機の時こそ自分のそして周りの「あるべきよう」が観えてくるものです。
- 「あるべきよう」に振る舞わない宰相の言葉は、マスクをしてその口もとの狡猾な企みを隠してもマスクが小さすぎては隠しようもありません。新型コロナ蔓延の渦中に、火事場泥棒の如く「緊急事態条項」を持ち出し積年の恩讐を果たさんとする企みは阻止しなければなりません。私たちには私たちの「あるべきよう」振る舞いが必要です。それは「あるべきよう」に振る舞わない人たちをその舞台から退場してもらうことにもなるはずです。

もうしばらくお休みいたします

「読書会」 「写経会」 「映画会」 「詩話会」 「居酒屋の会」

